Ⅰ　研究の概要

本校は、平成 26 年度より、中央区国際教育推進パイロット校の指定を受け、国際教育に関する先進的な研究・開発を行い、その成果を区内小学校に広めてきた。また、平成 28 年度より文部科学省教育課程特例校の指定を受け、1・2年週2時間、3年以上週3時間を英語科の学習として授業時間を確保し、外部講師として LCA 国際小学校の教師、区英語講師と連携しながら英語学習を進めている。そして、地域と連携した国際科の学習も行っている。

下図の本校独自の学習様式に合わせた活動により、発話量の確保を意識した授業展開（学習形態の工夫など）を追究していくことで、効果的に学習内容の定着が図られている。

日々の学習の先に、「使いたい」と思える実践的な学習の場として、中央区版「一校一国運動」の友好国であるオーストラリア連邦の留学生や、香港から来日した修学旅行生との交流を行っている。また、地元の企業と連携し、Native Speaker の職員に、児童が地元日本橋を案内する取組は、6年間の集大成として児童の意識の中に定着している。

本校の英語科学習様式

習う → **慣れる** → **試す**

目的・場面・状況を意識した言語活動

習う	慣れる	試す
・学習の目的を知る。 ・中心となる活動に必要な表現を知る。 ・友達や教師を相手に練習をする。	・既習表現で使えそうなものを選ぶ。 ・相応しい表現か考える。 ・reaction や周りにあるものを使って、言い慣れる。	・新しく学んだ表現と既習表現を組み合わせて使う。 ・相手の問いに対して自分が使える表現で答える。 ・生活の中で使える場面で実践する。
Interesting	Individual	Interactive

本校 HRT 主導の1単位時間の授業の流れ

Greeting Review	Today's Goal	Activity Presentation	Wrap up	ORT Time☆	Closing
・前時の表現をどれくらい覚えているか想起させ確認する。 ・今日の学習に関連した歌やチャンツなどで児童の意欲を高める。	・今日の学習、目的を児童に伝える。 ・今日の学習に必要な単語、表現の練習をするようにする。 〇考えさせるリピート 〇発話量の確保 〇視覚教材の工夫	・今日の学習表現を繰り返し使える、ねらいに沿った Activity を設定する。 ・教師が分かりやすく Activity を Small Talk で導入する。 〇reaction の充実 〇ペア・グループワークの工夫	・今日の学習表現を確認する。 〇代表児童による今日の Activity の振り返り（良い発音や反応を意識した児童を紹介）	・読み聞かせをしていく中で、本単元で使用した表現を中心に、HRT が児童に質問をする。 ・ALT や JTE から正しい発音を習得するようにする。	・今日の学習のまとめ ・次時の予告

☆**ORT Time** … Oxford Reading Tree シリーズの本を使用した読み聞かせを中心とした時間
〇HRT の指導の留意点

しかし、自分の思いを英語で表現するに当たり、どのような言葉を使って表現すればよいか分からない児童への支援が課題としてある。学習の目的を明確にして、実際のコミュニケーションを想起させる場面を設定し、必然性のある言語活動を行えば、児童は場面や状況に応じた表現の仕方を考え、発信することができると考える。このことから、今年度の研究主題を「自分の思いを英語で発信できる児童の育成　－習う・慣れる・試すの学習過程を通して－」とした。

英語で発信できる育てたい Tokiwa の児童像

低学年	中学年	高学年
学習した表現を使って、進んで自分の言いたいことを伝えたり、尋ねたりできる児童	学習した表現を活用して、自信をもって自分の思いや考え方を尋ねたりできる児童	日常生活の中で、相手を意識しながら、学習した表現を活用して、やりとりができる児童

研究主題

自分の思いを英語で発信できる児童の育成

―「習う・慣れる・試す」の学習過程を通して―

研究仮説

目的を明確にして、日常生活と関連させた、必然性のある言語活動を行えば、児童は、場面や状況に応じた表現の仕方を考え、英語で発信するであろう。

研究内容

指導過程の工夫

基本的コミュニケーションに使える語彙・表現を配列した年間指導計画

〇学習のゴールを明確にした指導計画の工夫
・Classroom English の確立
・年6回の実技研修による指導力向上
〇教室内や廊下の掲示を英語で表示

「習う」段階を中心に

定着を図るための工夫

定着の工夫

〇HRT・ALT・JTE の役割の明確化
〇ORT Book による読み聞かせ
〇English File の制作・活用

「慣れる」段階を中心に

環境作り

〇Heart to Heart(生活目標)を英語で紹介
〇English Park Room や廊下の English コーナーの活用
〇Tokiwa English News の発行(各学年の取組を紹介)
〇親しみやすい・思考が伴う Activity の工夫
・日常生活に近付ける取組(朝の会や職員室入退室時)
・他国や地域・企業との交流会、スピーチコンテストに向けて

「試す」学習活動全体を通して

指導過程の工夫 【習う段階を中心に】

Point１　児童の思考の流れから考える学習のゴールを明確化した指導計画

「習う」段階での Point
・学習の目的を知る。
・中心となる活動に必要な表現を考える。
・既習事項で使えそうなものを考える。
・相応しい表現を考える。
・新しい表現を知る。

「慣れる」段階での Point
・中心となる活動に必要な表現を整理する。
・必要な表現か、相応しい表現か修正する。
・教師の demonstrationを見る。
・友達や教師を相手に練習する、確認する。
・友達の発言を聞く、助言する。

「試す」段階での Point
・練習して言い慣れた表現を使う。
・うまくいかないところを修正して使う。
・自分が使える表現を繰り返し使って伝えたいことを伝える。
・自分の問いに対して自分が使える表現で答える。
・友達や教師を相手に練習する、確認する。
・次にできるようになりたいことを考える。

Point２　既習の事項を選択・活用できる場の設定

手だて(1)
各単元で学習したものを組み合わせて、活用する場面の設定
例　自分が持っている×おもちゃ×家

【既習の言語事項】

I　←自分・相手　I　you
have　←好き・遊ぶ　like　play
toy　at　home　←食べ物・野菜・果物・動物等

例　相手のことを知るために思考する場面を設定
・Open　question を用いて質問する場合
What　～～～　do　you　like？
→ I　like　～～～.
・動詞部分を変えた質問をする場面
What　～～～　do　you　have？

手だて(2)
他者への配慮を意識させる場の設定

React(反応)
Ok, Me too, Nice, Good, Thank you, Super, Excellent

Repeat(繰り返し)
A: What time is it?　B: Two o'clock.
A: Two o'clock?　B: Yes.

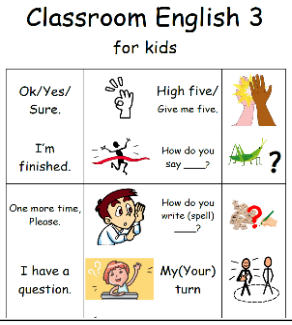
Response+E(強調)
A: Do you like video games?　B: Video games? Yes.

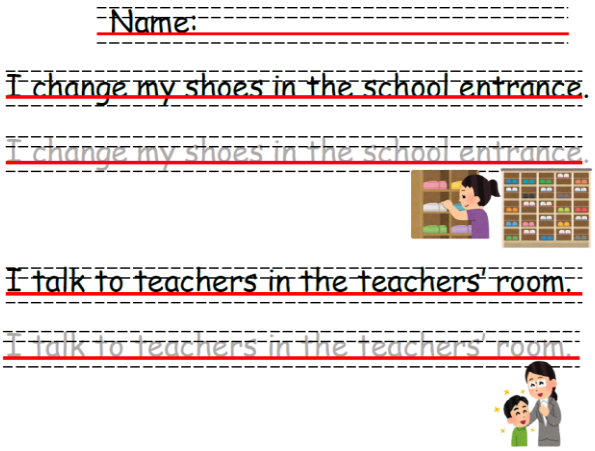
Point３　書くこと

低学年
英語の文字にふれる・親しむ活動
文字の形や大きさに触れる経験から文字への興味関心を高める。
中学年
音声で親しんだ語句や表現を4線に書き写す活動
アニメや映画などに出てくる phraseや新しい Target　phrase をなぞり書きすることで文字と音の認識を向上させる。
高学年
語と語の区切りや大文字、小文字の使い方に気を付けて書き写す活動
指導計画上に Writing　Time を設定し、教材「Metro　learning」「Stream　Talk3」の例文など十分に言い慣れた表現をなぞり書きすることで文字と音の認識を向上させる。

Point４　Classroom　English

先生や児童が教室で使う英語を提示し、確かめながら使う。





定着を図るための工夫

【慣れる段階を中心に】

Point１ 習った表現を使って、児童が伝えてみたい、という場面や目的を作り出すための工夫

手だて(1) 実技研修による指導力の向上

指導者の力量を高めるために年間を通して、実技研修会を実施している。

	日程	内容
①	4月 5日(水)	本校の英語科の授業形態・Quick Time・ORT Time の進め方
②	4月30日(金)	1か月の授業を行っての振り返り・Quick Time・ORT Time の指導向上
③	6月16日(水)	Classroom English の徹底(授業中の指示等の Phrase を増やす)
④	8月31日(火)	Small Talk の向上①・Practice / Activity の進め方確認・Phonics 練習
⑤	9月29日(水)	Small Talk の向上②・Practice / Activity の進め方確認・Phonics 練習
⑥	11月17日(水)	授業の流れの再確認・改善

○Tokiwa English Hand Book

常盤小学校の英語指導の向上を図るために作成

1 How to Lead English Lesson
2 How to Lead ORT Time
3 How to Lead Quick Time
4 How to do Metro learning
5 Teacher Talk / Classroom English
6 Heart to Heart

手だて(2) ORT Book の活用

ORT OXFORD Reading Tree を活用

① 学習表現が話の中に使われている。リズムや語彙、phraseを楽しむ。
② 季節や行事に合わせ、文化の違いや共通点を知る、楽しむ。
③ 学習表現に関係なく、読み物としてストーリーを楽しむ。
④ 多読につなげる。

手だて(3) ALT JTE の役割

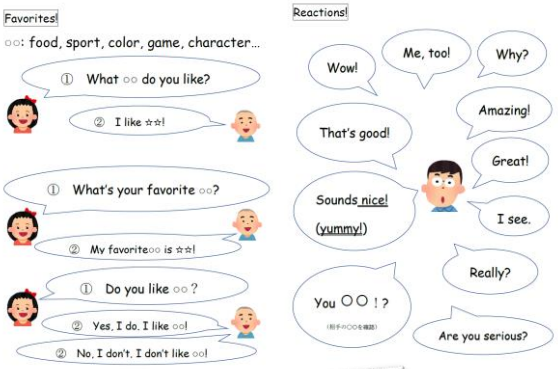
① レッスンでの役割を確認

流れ	■ALT ★JTEの役割
1.Greeting /Warm up /Review	■★英語を使う雰囲気作りをする。 ★教材を準備しておく。
2. Today's Goal /Practice	■★発音のモデルを示す。 ■★発音がうまくできていない児童に対して個別指導する。
3.Activity	■★HRT とデモンストレーションを行いモデルを示す。 ★教材などを配布する。 ■★担当のグループの Activity の様子を見守り、適宜指導する。
4.wrap up	
5.ORT Time	★絵本を実物投影機に映す準備をしておく。 ■児童と一緒に楽しみながら、扱う単語や表現の発音のモデルを示す。
6.Closing	■★児童と挨拶する。

Point２ どのような状況や場面で、習った表現を使おうとしているのか意識付ける

手だて(4) English File

会話を充実させるために、既習した表現を集めたファイルを作り、児童がファイルを頼りに自力解決する手だてとして活用する。(4年生の事例)



手だて(5) ふわふわ English Word

自然な会話になるような reaction をとるための手助けとして、学級の窓にふわふわ English Word を掲示している。
児童は、コミュニケーションをとるときに、このふわふわ English を見て、どのような相づちを打つか、どのように reaction するかを自然な会話が成り立つように活用している。

手だて(6) Quick Time

授業で学習した単語、phraseを5分間で多く発話することで、英語の音声に浸り、学習の定着を図ることをねらいとしている

環境作り

【試す段階を中心に】

Point１　児童が積極的に英語で発信するため、日常生活の中で実践の場面を設定する

手だて(1) Heart to Heart

表現を全校朝会で紹介し、日常的に教師と児童、または児童同士の会話に取り入れる。学校行事や学校生活に関係することを会話の内容として扱うことで、意欲的に児童の表現する態度を育てることをねらいとしている。

月	生活指導月目標	Phrase	答え(の例)
4	決まりを守って楽しい生活をします。	Hello! Good morning! See you!	
		Here you are.	Thank you. You are welcome.
5	進んで規則正しい生活をします。	Walk please!	Thank you!
		Excuse me. I'm ~.	Yes, please. / Sure.
6	進んで健康安全に心がけます。	Wash your hands.	I will. / I did.
		How are you?	I'm fine. I'm good.

手だて(2) Tokiwa English News

学校での英語活動の取り組みを保護者や地域に知らせる。

手だて(3) Written in English

Today's time table は全教室に掲示している。
その他多くの場所に英語表記を用いることで、語彙や phrase に自然に触れさせる。

【教室の時間割】

【職員室の入り方】

【お天気ボード(廊下)】

【施設案内】

手だて(4) English Park Room や English コーナーの活用

校内の各所に英語に触れるコーナーを設け、語彙や phrase に自然に触れさせる。

試す場面　Goal（例）

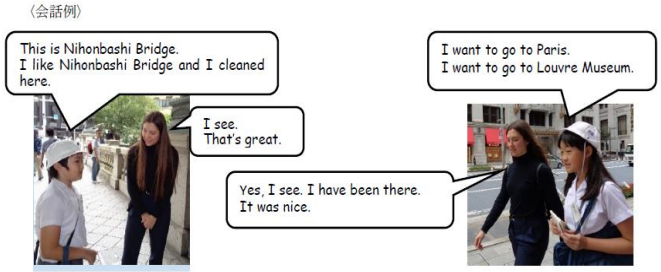
（1）企業・地域・他国との交流会

①【TCS（外国企業）との交流】

自分たちの「東京のおすすめの場所」をTCS　Holdingsに勤務する、インド出身の方に伝える活動を通して、日本の良さを大切にしようとする心情を育てることをねらいとした活動。

②【マンダリンオリエンタルホテル従業員との交流】

自分たちがまとめた地域の良さを英語で伝え、案内する活動を通して、地域の良さを理解し、地域を大切にしようとする心情を育てることをねらいとした活動。（近隣のホテル）



③【オーストラリアとの交流】

中央区姉妹都市であるオーストラリア　サザランド市の中学生と、全学年の児童が交流。

（2）Speech　Contest

年間1回、学習した表現を生かし、英語で自分の考えを発信する。

I'll talk about
my treasure.
My treasure is
everyone's
smiling face.

［表彰式の様子］

（3）朝の会・帰りの会

日直の英語による司会進行。

①Good morning.
②How are you?
③What day is it today?
④What' s the
date today?
⑤How' s the weather?
⑥What time is it?
⑦What day was
it yesterday?
⑧Today is（今日の時間割）
⑨" Heart　to　Heart "
Time

（4）委員会活動

【放送委員会・・・朝の放送を英語で行う。】

Good morning!
Today is Monday,
July 1st.

【保健給食委員会…給食のメニュー紹介を英語で行う。】

Today' s Menu　is
Grilled chicken bowl,
Miso soup with
60g vegetables,
Apple sherbet,
And Milk.

評価

本校では、1･2年、3･4年、5･6年の3段階に分けて、単元ごとに4技能5観点の CAN-DO リストを作成し、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動･外国語編と照らし合わせながら評価規準（基準）を考え、評価している。

1　各時間の児童の様子を担任が観察、対話などで学習状況を評価する。
　5･6年は数値による評価を行い、1～4年は記述式によって評価する。

2　学期末に全学年 ALT によるオーラルテストを行い、個人の学習状況を数値化して記録する。

（1）ねらい

児童の学習状況の把握を図り、児童および保護者へフィードバックするとともに、結果を基に、指導の改善を図る。

（2）評価

1～4年生は、英語のコメント欄に活用する。5･6年は、通知表の観点別評価として活用する。

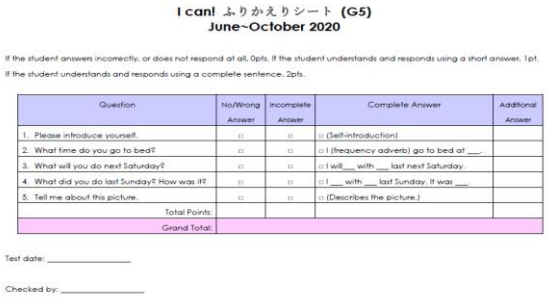
知識･技能	質問に対し、適切な表現を用いて答えることができる。
思考・判断・表現	自分の思いや考えに合う表現を用いて、答えることができる。
主体的に取り組む態度	①既習事項を活用して、質問に答えようとしている。 ②自分の思いや考えを伝えるために言い直したり、gesture などを用いたりしている。

（3）手順

ア　ALTが学期の学習内容をもとに、インタビュー内容を考える。

イ　HRTがインタビュー内容を確認し、児童の実態に応じたものになるよう変更してほしい点をALTに伝える。各学年の質問は3つ程度。高学年になるにつれて、5W1Hを含む質問内容を加え、思考面を見取ることができるようにする。

ウ　ALTがスピーキングタイムを実施する。



I can! ふりかえりシート (G5)
June~October 2020

If the student answers incorrectly, or does not respond at all, 0pts. If the student understands and responds using a short answer, 1pt.
If the student understands and responds using a complete sentence, 2pts.

Question	No/Wrong Answer	Incomplete Answer	Complete Answer	Additional Answer
1. Please introduce yourself.	□	□	□ (Self-introduction)	
2. What time do you go to bed?	□	□	□ I (frequency adverb) go to bed at ___.	
3. What will you do next Saturday?	□	□	□ I will___ with ___ last next Saturday.	
4. What did you do last Sunday? How was it?	□	□	□ I ___ with ___ last Sunday. It was ___.	
5. Tell me about this picture.	□	□	□ (Describes the picture.)	
Total Points:				
Grand Total:				

Test date: _____

Checked by: _____

3　民間が主催している英語のテストを受検し、結果を分析する。

今後の方向性【これからの Tokiwa English】

コミュニケーションのツールとしての役割を第一として、本校独自の国際科や他の教科の中で英語を使い、その結果として語学力の習得を目指す、常盤小イマージョン教育を確立していく。

・日常生活に密接な Lesson Plan の作成や、学習した phrase を実践する日常化を外部人材と連携を図りながら、改善･改訂していく。

・教員による実技研修会を継続して実施する。Classroom English や demonstration の向上や、Small Talk や phonics の専門的な知識や技術も、研修会を通してスキルアップを図っていく。